

65 期喜寿記念同期会を振り返って

喜寿記念同期会幹事団

喜寿記念同期会は参加された同期諸氏のお陰で無事終了しました。

早めの案内と“これが最後”という声掛けが奏効して、これまでの同期会で一番の盛り上がりとなりました。まず、3月の案内発送から開催までの長い間、代表幹事として陣頭指揮の布施修一郎君（6組）からの総括コメントです。

「コロナ禍が過ぎたら、上田で同期会をと考えてはいましたが、昨年の5月頃、喜寿記念を行うことを決定しました。それも、喜寿の77、7月にすればスリーセブンで縁起が良いかなと思い、今年の7月12日の開催と相まりました。

先輩方にお聞きしたところ、どの期も喜寿の年くらいを最後の同期会にしているとのことから、案内に「これが最後の同期会になるかも」と書き込みました。70名くらい集まれば良いかなと考えておりましたが、“最後”の一言が効いたのか、6月末には100名のエントリーとなりました。開催日直前に3名の欠席があり、最終的に97名の参加者です。

周囲の期からは「すごいですね！」と言われ、幹事代表としては鼻を高くしています。

私たちがもうじき80歳になるわけですから、担任の先生方はほとんど鬼籍に入られ、同期の物故者数も知りうる限りでは75名となっています。

ご存命の先生のうち、10組担任の田中格先生に、お元気な姿でご臨席いただけたのは大変ありがたいことでした。

クラス別登壇では、皆さんからいろんな情報を報告いただける時間が取れば良かったのですが、物理的に無理でした。澤崎健一君（3組）の手による記念ポスターの掲載は会場に色を添えてくれました。

受付、集合写真撮影、宴会、クラス別登壇、校歌斉唱と司会者の指示通りに統制がとれた形でほぼ時間通り、大過なく進められたのは、皆さんの協力の賜物と感謝申し上げます」

続いて、2時間半にわたる長丁場の司会進行を務めた中村幸男幹事（4組）からの感想です。

「還暦、古希の風習は中国から伝わった長寿を祝うものですが、喜寿は日本独特の風習であるとかで読んだ。古来から、どうも中国より日本の方が長生きであつたらしい。

七十七歳ですぞ！わが65期卒業の皆さん、よくぞ長生きをしていच्छる。

よくぞお集まりいただきました。懐かしさと、変容への驚きと、親しかった人へのごちない挨拶や話がごっちゃ混ぜになった、この感覚はなんなのでしょう。

七十七歳とはいえ、女性陣の衰えのない元気に圧倒され、また田中格先生の矍鑠としたお姿に九十歳を超えた自分を全く想像できず、ただただ頭を垂れるのであった。

小生の司会とは言えば、布施君の筋書きをなぞるだけで、かなりイージーな仕事ではあったが、飲み食いがままならずとゆっくり語り合えずは司会の宿命と諦めた。

最後に、西村君、荻原君、増澤君の校歌斉唱の4番は涙で声が震えたのは小生だけか？」

猛暑が続く 7 月 21 日（月）には、幹事団の 11 名が上田市本町のレストランに集合して、会場で撮ったスナップ写真約 400 枚を個人別に振り分け、特製アルバムに入れる作業などを行いました。中には顔と名前が一致しない人もいて、間違いなく判別分類するのは大変でした。写真は皆さんの手元に届いていることと思います。（間違った写真が入っていましたらご容赦ください）

幹事反省会では、冒頭、布施代表幹事のご苦勞に対して感謝を込め、大きく引き伸ばした額入り集合写真を神田愛子さん（10 組）から贈呈されました。布施君は「これだけ大きな記念写真



になると、一人一人の顔が良く分かる」と大喜びでした。（写真左）

その後は、同期会での話題を肴に賑やかな幹事打ち上げ会となりました。

そして、7 月 23 日付の信濃毎日新聞には「上田高 65 期卒業生 喜寿を祝う同期会 思い出話に花さかせ」という記事が写真入りで大きく掲載されたのも、記念すべきことでした。

65 期 HP では、クラス別に参加した人の感想を順次掲載する予定です。

しばらくの間、写真や HP で同期会の余韻をお楽しみください。



幹事会にて、左手前から時計回りに、小山、中村、布施、小山田、吉田、増澤、柳澤、神田、丸山はる代、若林、上原

（2025 年 7 月 25 日 記）

以上